

平成30年度事業計画・収支予算

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

歴史街道推進協議会

平成30年6月

目 次

I. メインルート事業	……1
II. ネットワークエリア事業	……3
III. 日本文化体感プログラム事業(日本文化理解・グローバル人材育成) ……5	
IV. フォーラム・展示等	……7
V. 歴史街道倶楽部事業	……8
VI. 広 報	……9
VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施	……10
VIII. 協議会運営	
1. 組織体制の強化、会議体運営	……11
2. 事業推進	……11
3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大	……11
4. 要望・提案・連携活動への取り組み	……12
平成30年度 事業支出予算	……13
平成30年度 収支予算書(案)	……14

平成30年度事業計画・収支予算

(平成30年4月1日～平成31年3月31日)

I. メインルート事業

(事業目的・方針)

歴史街道の魅力を広範に発信すべく、メインルート上において広域かつ官民が連携して取り組むべき事業に注力するとともに、メインルート上の6拠点が一堂に参画できる事業の構築を目指す。

(事業項目)

1. 地域連携事業

(1) 関西5私鉄連携事業

関西5私鉄(近鉄、京阪、南海、阪急、阪神)と連携し、伊勢～飛鳥～奈良～京都～大阪～神戸と大阪～和歌山を結ぶ各沿線の歴史街道をテーマにした5私鉄・グループ沿線の魅力を発信するイベントを開催をする事で周遊促進を図る。

・名称 関西5私鉄沿線あの町この町スタンプラリー&歴史街道ウォークの旅
2018

・期間 平成30年9月14日(金)～12月16日(日)

・スタンプラリー

5私鉄沿線20か所の各スポットにスタンプ台を設置し、参加者は希望賞品の応募定数分の箇所を回り、スタンプ印を集めて応募する。

・ウォーク

5私鉄沿線20市町にて、歴史街道をテーマとしたウォークを開催する。開催日は市町ごとに設定、1ウォーク概ね50人前後の定員とする。

・告知

各沿線(グループ沿線含む)及びウォーク参加市町の関係先にチラシを配置し、幅広く本事業をPRする。

(2) 伊勢～飛鳥間連携事業

・日本風景街道「伊勢街道」連絡協議会や沿線自治体等と共催でフォーラムを実施する。

・街道ウォークなどを関係団体と連携して実施する。

(3) 飛鳥～奈良～京都間連携事業

・平成29年度から引き続き「食文化」をテーマにしたリレーウォーク&講演会を開催する。

①名称 和食の歴史でめぐる飛鳥～奈良～京都

②期間 平成30年2月24日(土)～10月13日(土)

[ウォーク7回・講演1回]

③主催 歴史街道 飛鳥～奈良～京都 地域連携実行委員会

- ・並行して、メンバーのワーキングを開催し、リレーウォーク&講演会の成果を活用した「歴史街道」の理念普及方法を検討して試行する。
- ・これまでの連携事業における成果の活用方法として、地域を巡る手段としての「自転車」観光を捉え、勉強会を開催し、サイクリングルートの開発を図る。

※勉強会開催予定

第1回	講義：サイクリング観光の基礎知識（開催済み）
第2回	体験：サイクリングツアー （「飛鳥～奈良～京都」エリアでの自転車観光の可能性を体験）
第3回	講義：各地の取り組み
第4回以降	試行：各市町村での自転車観光試験走行

（上半期に第1回～第3回を開催し、下半期に第4回以降を開催）

(4) 西国街道連携事業（京都～大阪～神戸間）

- ・エリア内の関係先によるワーキングを開催し、これまでの講演会やリレーウォークを振り返りながら、他事業との共通化や、エリア延長等を検討する。必要に応じて、新たなイベントを試行する。
- ・連携博物館、資料館等のニーズを調査し、共同広報等を試行する。

(5) 京街道・淀川左岸地域連携事業（京都～大阪間）

- ・事業項目（4）と同様。

(6) 観光ガイド組織との連携事業

- ・各地の観光ガイド組織のミーティングを継続し、ガイド実施方法等ノウハウの共有を図るとともに、共通の課題解決を図る。
- ・各地の観光ガイド組織の活動内容を収集し、協議会ホームページやメールマガジンなどで情報発信する。
- ・各地の観光ガイド組織による「歴史街道をたどる語り部ツアー」の定期的な実現に向けて数カ所において試行する。

(7) 巡回展示+講座の開催

- ・メインルート6拠点および首都圏（または中京圏）で、巡回展示や講座を試行する。

予算 3,480 千円 (H29: 4,200 千円)

2. 地域共同事業

(1) 歴史街道スタンプラリー2017の継続実施

実施期間は、平成30年5月31日（木）まで

(2) 歴史街道スタンプラリーの見直し

来年度の歴史街道スタンプラリーのリニューアル開催に向けて、スタンプラリー協力団体（寺社仏閣、文化施設、ホテル旅館等）の連携策新設など内容を検討する。

(仮)「歴史街道を探そう」キャンペーン

- ①一般の方から歴史街道らしい風景、お勧めスポット等をSNSで投稿していただき、抽選でプレゼントを進呈する。歴史街道ロゴの入った案内標識やステッカーも投稿対象とし、現況調査を兼ねる。
- ②スタンプラリーパンフレットの代わりにスタンプ帳を作成し、歴史街道スタンプを集めていただいた方に抽選でプレゼントを進呈する。

予算 200 千円 (H29: 2,400 千円)

3. ツアー開発 (インバウンド関係)

関西観光本部の取組みに合わせて、積極的に提案を継続し、必要に応じて映像等のツールを作成する。

関西観光本部の取組・方向性	セールス方針
魅力的な体験観光素材のリーフレット制作	<ul style="list-style-type: none">・歴史街道倶楽部、日本文化体感プログラム、教育プログラムの体験観光素材を提案する・市町村など地域で開催されている体験観光素材を調査し、情報提供する
多様なサブルート開発	<ul style="list-style-type: none">・一筆書きツアーの他、日本遺産、西国街道、京街道、中山道、高野街道などのモデルコースを提案する
ファミトリップの実施	<ul style="list-style-type: none">・コース提案をする・日本文化体感プログラムの利用を提案する・協議会の講師、ガイドを利用いただく

予算 500 千円 (H29: 500 千円)

II. ネットワークエリア事業

(事業目的・方針)

1. 南北近畿エリアの活性化
2. 「世界文化遺産」地域連携会議等との連携

(事業項目)

1. 関西の歴史的地域の魅力向上

- (1) 「歴史街道」モデル事業の推進、世界遺産特別法の制定などにつき、国などの関係機関に要望・提案を行う。
- (2) 「世界文化遺産」地域連携会議、DMO推進機構などとコラボレーションし、近畿の世界文化遺産地域関連事業やDMO連携をさらに活性化させる。

(3) 地域リーダー・ネットワークのさらなる充実を図り、協議会と地域、また地域・官民間の各種共同・連携事業実現を促進する。

(4) 観光案内所ネットワーク（100箇所）の維持に努める。

2. 近畿を南北3つに分け、広域振興

(1) 紀伊半島

①平成29年度に東京で実施した「世界遺産 紀伊山地の霊場と参詣道の本質を探る」シンポジウム（吉野・熊野・高野を代表する高僧が出演）の内容を10言語に翻訳し、（東京五輪により日本への注目が集まり始める）平成31年度までにWeb上で公開する。

②紀伊山地の参詣道（全域）における外国語標記不足箇所を調査する。
（熊野古道・中辺路への設置は平成29年度までに終了）

③平成29年度（熊野古道中辺路）に引き続き、高野および小辺路の外国語資料（ガイドブック・MAPなど）を制作する。

(2) 北近畿・琵琶湖・若狭エリア

①「食と歴史の回廊」（環状高速道路に沿った連携）のイメージ映像を制作する。
（平成29・30年度事業）

②広報面では本年度は名古屋対策に重点（事業選択中）

③風景街道「琵琶湖さざなみ街道・中山道」を核にした滋賀県の地域団体等と協働した資源発掘、まちづくり、自転車観光の振興に取り組む。

(3) 中央部（メインルート事業除く）

①姫路での「世界遺産サミット」、また昨年度同サミットで提唱された西日本の世界遺産（原爆ドーム・厳島神社・萩・石見銀山・姫路城）連携などを推進する。

②二条城「アートアクアリウム城」など、世界遺産保全活用型事業への協力。

③2020年「世界遺産一斉行動」に関する調整。

④文化庁「世界遺産活性化予算」を法隆寺においても活用し、東京での連続セミナーや外国語資料の充実などに取り組む。

⑤百舌鳥・古市古墳群等の世界遺産登録支援など南大阪の振興に努める。

予算 1,200千円 (H29: 1,500千円)

Ⅲ. 日本文化体感プログラム事業

(事業目的・方針)

本プログラムの実施により、以下の効果を目指す。

1. グローバル人材の育成
2. 周遊人口の拡大、外客誘致(インバウンド)

第9期計画に示した事業方針に沿って、座学コンテンツの充実、組み込み提案力の強化、体制の整備に取り組む。

以下、本年度の取り組みを示す。

(事業項目)

1. 日本の歴史文化を伝える座学コンテンツの充実

- (1) プログラム対象者の言語及びニーズにあわせた、座学資料のカスタマイズ
外国人研修生向け、社員・職員研修向け、大学生向け、高校生向け、一般向けなどのニーズに合わせた座学資料の標準化を進める。
- (2) 座学資料のこまめなアップデート
定期的に講師・ガイドミーティングを開催し、座学資料の改善や情報共有を行う。
年3回(提案→審議→共有)を目安に、必要に応じて追加開催。

2. 組み込み提案力の強化

- (1) 海外(インバウンド)向けプログラムの充実
 - ①国際協力機構(JICA)が招聘する海外からの研修員に日本の歴史文化を紹介するプログラムは、JICA及びPREX(太平洋人材交流センター)等研修事業者との連携を維持し、年間50～60件の維持を目標とする。
(※第9期中期計画：インバウンド既存事業)
 - ②関西観光本部、旅行会社等関連団体との連携により、ファムトリップや企業のインセンティブツアー、修学旅行等への本プログラムの組み込み提案を継続実施する。
将来的には、地域・事業者が自ら実施できるようなプログラムの汎用化を目指し、第9期ではその基盤作りを行う。
※第9期中期計画：インバウンド新規事業：日本文化体感プログラム版ツアーの基盤作り、国内新規事業：教育旅行コンテンツの基盤作り

(2) 国内向けプログラムの充実

- ①企業等におけるプログラムの実施
会員企業・団体向けの研修や体験会の実施、新規研修事業者向け講座などの実施拡大を目指す。
本年度は、開拓を進め新規採用1件を目標とする。
(※第9期中期計画：国内既存事業)

※第8期では、竹中工務店、近鉄グループホールディングス、アートコーポレーション、ダイキン工業などの企業で実施。

②大学、高校などにおけるプログラムの実施

大学（観光学部、国際教養学部、経営学部、文学部等）や高校（短期海外留学生等）の日本人および外国人留学生向け講座の実施拡大を目指す。

本年度は、開拓を進め新規採用1件を目標とする。

（※第9期計画：国内既存事業）

3. 実施体制の整備

(1) 座学コンテンツの整備に向けて

講師の育成、多言語対応力を強化するとともに、大学等の専門家、学識経験者との連携を強化する。

(2) 現地コンテンツの整備に向けて

①地域の観光ガイド、全国通訳案内士との連携を進める。

相互勉強会の実施など、協力体制の強化と情報共有を行う。

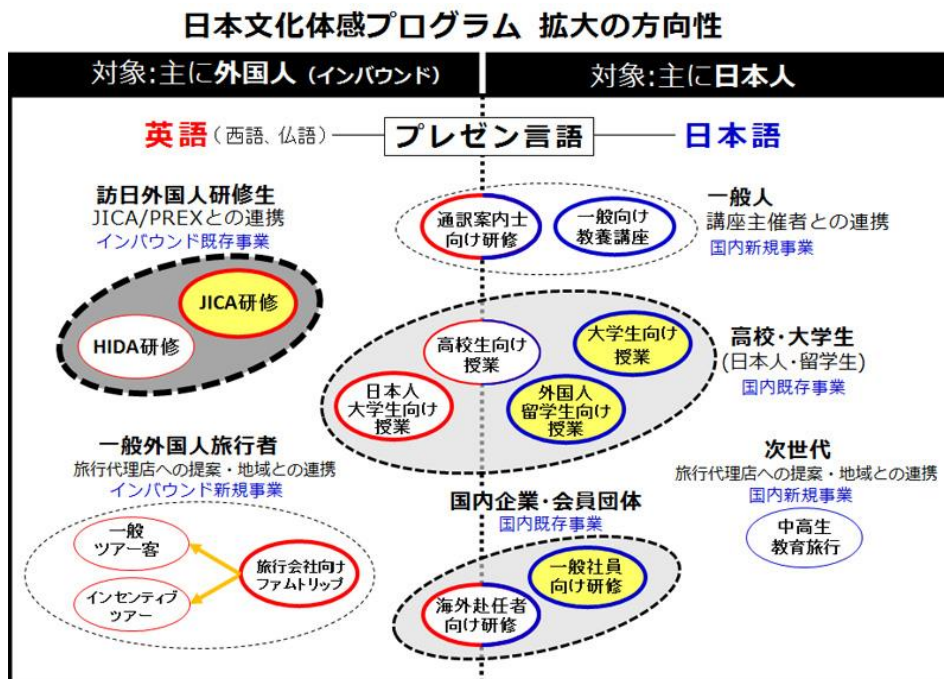
※第8期では、ワコールスタディホール京都での一般向け講座、通訳案内士向けスキルアップ研修などを実施。

②展開地域の拡大、体験型視察コースの開発

体験型施設や新たな訪問先の開拓を継続実施し、提案コースの充実を図る。

4. 事業拡大に向けた活動の方向性（第9期計画の全体像）

下記分野において検討・試行を継続しながら、本年度は訪日外国人研修員向けのプログラムを主体にしつつ、大学、高校、会員企業・団体への提案に注力し、新規事業展開を目指す。



予算 3,500千円 (H29: 4,000千円)

IV. フォーラム・展示等

(事業目的・方針)

地域にある歴史・文化遺産等に関わる見聞を通じて地域の伝統・文化を学ぶ機会を積極的に提供することで歴史街道の存在価値を示す。

(事業項目)

1. 大阪府立中央図書館共催講演会&展示
2. 歴史文化遺産フォーラムの開催（文化庁地域文化創生本部、関西広域連合共催）
3. 紀伊山地三霊場フォーラムの開催（紀伊山地三霊場会議共催）
4. 各種展示
 - (1) 阪神高速イベントスペースLOOPA出展
 - (2) 親子で楽しむ宇治茶の日展示ブース出展
 - (3) 関西ワールドマスターズゲームズ2021総会出展
 - (4) 道の駅での展示※上記以外でも関係団体等の依頼に応じて、適宜検討、企画、実施する。

5. 子供向けプログラム

- ・ターゲット 小・中学生
- ・目 標
 - ①歴史に親しみを持っていただく
 - ②近畿・関西圏の集約された歴史文化遺産を知っていただく
 - ③生涯を通じて歴史文化の現地を旅していただく（現地に触れていただく）
- ・開 発
 - ①奈良教育大学などの教育機関や地域の文化施設、観光ガイド等とともに、新しい企画を開発し、試行する。
 - ②自治体等で実施する事業の情報を収集し、新企画開発に活かすとともに、データベースの蓄積を図る。
- ・普 及
パッケージ化されたプログラムを教育関係者等に活用いただけるようツールとして公開する。
- ・資金獲得
独立行政法人国立青少年教育振興機構が運営する「子どもゆめ基金」に応募し、事業運営資金の獲得を目指す。

予算 2,080 千円 (H29: 5,600 千円)

V. 歴史街道倶楽部事業

(事業目的・方針)

歴史街道計画実現のための応援団であり、かつ当該計画の検証機能を果たすための組織であるという位置づけに沿った活動に注力するとともに運営収支の改善を図る。

(事業項目)

1. 会員誌「歴史の旅人」の発行（年4回；4千部／回）

(1) 特集予定

No.	2018	特集地域	備考
94	春号	和歌山県、和歌山市	ガイド団体紹介終了
95	夏号	奈良県、葛城市、吉野町、大淀町	古代史ゾーン
96	秋号	三重県、伊勢市、津市	メインルートと周辺
97	冬号	大阪市、吹田市、箕面市	メインルートと周辺

(2) 内容の一部改訂

例)

- ①会員団体や関係団体の取り組み紹介枠の拡大。
- ②協議会の取組み紹介「T o p i c s」枠の拡大。
- ③歳時記コーナーの復活。

(1997年度「祭」、98年度「花」「食」「和菓子」などを紹介)

(3) 会員誌の有効活用

公共図書館や関係団体の文化施設等に寄贈し、閲覧誌として多くの方々に目に触れるようにする。

2. イベント

(1) オープンイベントの増加

オープンイベントを増やすことで参加間口を拡大、新規会員獲得につなげる。

(2) 人気イベントの継続

京の旅(夏・冬)、歩いてたどる歴史街道、五感で体感！にほん文化シリーズ(近鉄文化サロン共催)など。

(3) 首都圏企画の継続開催

奈良まほろば館共催セミナー、伝統芸能鑑賞会、東京ウォークなど。

3. Webによる積極的情報発信

協議会ホームページ改訂にあわせて見直しする。

4. ハンドブック改訂

特典施設等の情報を更新し、Web情報も随時更新する。

5. ボランティアスタッフ

スタッフ会議への参加、会員誌「歴史の旅人」の編集企画、原稿執筆、イベント企画、運営などのサポート

- ・定例会議 4月、7月、10月、1月
- ・テーマ別会議 随時開催
- ・フォーラム活動
「湯けむりの仲間」、「ぶらり！歴史旅」、「鉄道廃線フォーラム」、
「歴史体感ウォーキング峠を越えて」「旅カフェ・まちあるき」など。

予算 17,020 千円 (H29: 18,180 千円)

VI. 広 報

(事業目的・方針)

歴史街道計画の知名度向上、理念訴求ならびに歴史街道ブランドの価値向上を図るとともに、歴史街道各地の魅力を発信する。

(事業項目)

1. 情報発信

(1) マスコミ、関係者向けの情報提供

- ①メールマガジン「歴史街道なう」(毎月第4木曜日)の発信
協議会会員団体担当者へ、毎月1回、活動状況についての報告メール
- ②イベント等開催時のプレスリリース適時発信
- ③歴史街道情報交換会(地域共同事業)開催
- ④自治体、関係団体の情報交換会等への参加

(2) 一般向けの情報提供

- ①メールマガジン「DO楽」(毎月第2木曜日)の発信(配信先約6,500件)
- ②月刊「歴史街道」(PHP研究所)における記事掲載(地域共同事業参加自治体の優先的掲出)
- ③朝日放送「歴史街道スペシャル」放映に対する協力
- ④CATVリレー番組「歴史街道～わたしたちのまちの歴史と文化～」放映に対する協力
- ⑤関西5私鉄の沿線情報誌等、会員企業の媒体での掲出
近鉄ニュース、阪急TOKK等(地域共同事業参加自治体の優先的掲出)
- ⑥歴史街道iセンター(情報発信拠点43箇所)での掲出

(3) 協議会会員団体の持つ媒体との連携

会員団体の支援を得て、各団体の持つ様々な媒体との連携広報活動を行う。

- ①会員団体HPへの協議会ロゴ(含歴史街道計画を応援しています)の掲出依頼
- ②各社のイントラネット、社内報、PR誌などでの協力依頼

(4) 歴史街道iセンターの活性化

歴史街道iセンターを歴史街道の情報拠点として、継続して活用する。

定期的訪問等により情報発信ポイントとしての維持・活性化を図る。

※歴史街道 i センターの機能

・歴史街道情報の提供
・歴史街道の主催、後援等の事業パンフレット、チラシの配布
・会員団体の観光パンフレットの配布
・歴史街道のぼりの掲出（協力いただける施設のみ）
・歴史街道案内映像の上映（協力いただける施設のみ）

(5) 会員団体等実施事業への後援

会員団体、関係団体が開催する歴史・文化に資する活動に対して積極的に後援を行い、後援イベント等の告知チラシの配布協力など広報効果を増やす。

（目標件数 120 件、前年度比 1.5 倍）

(6) 歴史街道シンボルステッカーならびに Welcome ボードのメンテナンス

アンケート等により現状調査を実施し、メンテナンス方法等の検討を行う。

(7) マス媒体への企画提案

マスコミに対して、協議会の事業理解と共同企画の実現を働きかける。

2. 広報ツールの強化

(1) 協議会ホームページの全面改訂を行う。

- ①事業進捗に応じたリアルタイムの更新
- ②地域の歴史文化情報の継続的発信

(2) 多言語化対応動画

- ・YouTube「旅の星」ライブラリーの充実

(3) デジタルネットワーク型広報の強化

- ・Facebook、Instagram（インスタグラム）、メールマガジンの継続

(4) 広報ツールの作成、展示・配布

- ①外国語版関西世界遺産パンフレットの制作（関西広域連合共催）
- ②ウェブ版「歴史文化遺産の楽しみ方 in 関西」の充実

予算 7,220 千円 (H29: 4,030 千円)

VII. 各種の受託研究・受託事業などの実施

観光庁や文化庁、文部科学省など行政・各種財団等が公募する受託事業、助成事業等獲得に取り組み、事業化を図る。

予算 1,500 千円 (H29: 1,000 千円)

VIII. 協議会運営

(事業目的・方針)

- ・各会員団体にこれまで以上に参画意識を高めていただき、公正でオープンな協議会運営を目指す。
- ・地域の情報収集を図るべく、会議・勉強会・研修など各種会合を充実させる。

(事業項目)

1. 組織体制の強化、会議体運営

(1) 協議会事務局組織体制の強化

事務局スタッフの充実強化

- ①推進事業の充実・拡大に必要な事務局スタッフとして、会員企業等へ出向職員要請に取り組む。
- ②プロパースタッフの定年退職等に伴う後継者の採用と育成に取り組む。

(2) 会議体運営

- | | |
|-----------|-------------------|
| ①総会・理事会 | 1回(6/1) |
| ②幹事会 | 1回(5/15) |
| ③専門部会 | 適宜 |
| ④全体会議 | 3回(4/24・9月・2月を予定) |
| ⑤勉強会 | 適宜 |
| ⑥現地見学会の実施 | 1回(下期を予定) |

予算 400千円 (H29: 650千円)

2. 事業推進

I～VIの事業を推進する。

予算 300千円 (H29: 200千円)

3. 会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大

(1) 法人会員の拡大に取り組む。

(2) 会員との交流の機会を拡げ、法人会員との連携・協力を努める。

(3) 会員を対象とした勉強会や現地見学会等の充実を図る。

予算 300千円 (H29: 150千円)

4. 要望・提案・連携活動への取り組み

- (1) 歴史街道の理念に沿った事業への広報協力金の拡大や公募事業等への積極的な取り組みを行う。
- (2) 歴史街道計画の推進に必要な、国・自治体・企業等との連携事業については、関係団体に積極的に働きかけ、事業の推進にあたる。
- (3) 「企画提案型事業」については、会員企業等へ、今まで以上に提案をしていく。
- (4) 2020年東京オリンピック・パラリンピック、関西ワールドマスタースゲームズ2021開催に向け、インバウンドを意識した企画提案や運営に積極的に協力していく。
- (5) 一般財団法人関西観光本部への参画
関西広域での観光客誘致の推進を目的とした広域連携DMO「関西観光本部」に官民連携団体として参画する。
- (6) 文化庁の京都移転に伴う関西全体での気運醸成のための企画について、関西広域連合や関西経済連合会等と連携し、積極的に取り組んでいく。

予算 50千円 (H29: 120千円)

<ご参考：会員数の推移>

1. 法人会員

	省庁	自治体	民間企業	経済団体・ その他団体	準会員	合計
平成26年度	9	68	111	12	1	201
平成27年度	9	69	110	13	1	202
平成28年度	8	67	112	12	1	200
平成29年度	8	60	108	12	1	189
平成30年度(予想)	8	60	109	12	1	190

2. 歴史街道倶楽部 会員

	個人会員	法人会員	合計
平成26年度	2,562	16	2,578
平成27年度	2,361	14	2,375
平成28年度	2,071	14	2,085
平成29年度	2,032	12	2,044

平成30年度 事業支出予算

(単位：千円)

I	メインルート事業	4,180
II	ネットワークエリア事業	1,200
III	日本文化体感プログラム事業	3,500
IV	フォーラム、展示事業	2,080
V	歴史街道倶楽部事業	17,020
VI	広報	7,220
VII	各種の受託研究・受託事業など	1,500
計		36,700
VIII-1	組織体制の強化、会議体運営	400
-2	事業推進	300
-3	会員維持・増強及び会員との交流機会の拡大	300
-4	要望活動・提案活動への取り組み	50
計		1,050
合 計		37,750

(H29: 42,530)

平成30年度収支予算書(案)

平成30年4月1日から平成31年3月31日まで

(単位:円)

科 目	30年度予算額(a)	29年度予算額(b)	増減(a-b)
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①特定資産運用収入	2,000	2,000	0
②会 費 収 入	51,050,000	52,670,000	△ 1,620,000
会費収入	34,030,000	34,490,000	△ 460,000
個人会員会費収入	17,020,000	18,180,000	△ 1,160,000
③事 業 収 入	1,500,000	1,000,000	500,000
受託事業収入	1,500,000	1,000,000	500,000
④負 担 金 収 入	19,400,000	24,245,000	△ 4,845,000
広報協力金収入	16,750,000	20,895,000	△ 4,145,000
共同イベント負担金収入	2,650,000	3,350,000	△ 700,000
⑤雑 収 入	5,668,000	5,263,000	405,000
事業活動収入計	77,620,000	83,180,000	△ 5,560,000
2. 事業活動支出			0
①事 業 費 支 出	52,630,000	57,590,000	△ 4,960,000
会 議 費	1,000,000	1,000,000	0
要 望 活 動 費	50,000	120,000	△ 70,000
広 報 費	36,700,000	41,410,000	△ 4,710,000
給 料 手 当	11,550,000	12,040,000	△ 490,000
福 利 厚 生 費	2,490,000	2,550,000	△ 60,000
旅 費 交 通 費	840,000	470,000	370,000
②管 理 費 支 出	24,720,000	25,500,000	△ 780,000
給 料 手 当	7,520,000	8,200,000	△ 680,000
福 利 厚 生 費	1,770,000	1,600,000	170,000
旅 費 交 通 費	770,000	770,000	0
通 信 費	1,300,000	1,700,000	△ 400,000
消 耗 品 費	5,010,000	4,940,000	70,000
交 際 費	0	0	0
新 聞 図 書 費	0	0	0
賃 借 料	6,920,000	6,860,000	60,000
水 道 光 熱 費	280,000	280,000	0
租 税 公 課	580,000	400,000	180,000
事 務 雑 費	570,000	750,000	△ 180,000
事業活動支出計	77,350,000	83,090,000	△ 5,740,000
事業活動収支差額	270,000	90,000	180,000
II. 投資活動収支の部			0
①投資活動支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000
退職金給付引当資産取得支出	4,000,000	3,000,000	1,000,000
投資活動支出計	4,000,000	3,000,000	1,000,000
投資活動収支差額	△ 4,000,000	△ 3,000,000	△ 1,000,000
III. 予備費支出	35,215,376	36,890,397	△ 1,675,021
当期収支差額	△ 38,945,376	△ 39,800,397	855,021
前期繰越収支差額	38,945,376	39,800,397	△ 855,021
次期繰越収支差額	0	0	0